

## 全自交の広島市豪雨災害義援金 広島地本の北岡執行委員長より広島市に手渡す

2014年10月28日 広島市豪雨災害の被災者に向けた全自交義捐金を広島市へ手渡しました。

全自交労連は、第70回定期大会の会場で、広島市の豪雨災害で被災した広島市民に対する義援金を大会参加者に呼びかけました。

8月19日から、広島市を襲った集中豪雨は甚大な被害を与えました。発生した土石流とがけ崩れで死者74名、負傷者44名の人的被害をもたらすとともに、家屋の全壊193棟、半壊・一部損壊296棟と多数にのぼり、特に土石流被害の大きかった広島市緑井地区・八木地区では未だに復旧作業が続けられています。労働組合関係者も連合広島の組合員と家族7名が犠牲になっています。また、広島地本組合員の自宅にも被害が出ました。

全自交労連は広島地本の要請を受け、義援金の取り組みを中央執行委員会で決定し、大会参加者に呼びかけたところ、大会開催期間の2日間で17万4795円の義援金が寄せられました。

10月28日には、広島地本の北岡委員長が広島市を訪ね、集計した義援金を広島市に手渡しました。広島市は義援金配分委員会を設置して被災者に拠出する事としています。